



# キンシャサの軌跡



JICAコンゴ民主共和国事務所通信

2015年4月 Vol. 15

## Kinky Shot! -今月のキンシャサ-

## 新所長着任ご挨拶



早速、コンゴ各地を東へ、西へ飛び回ってます♪

小細所長の後任として3/21に赴任した青木です。これまで、セネガル、象牙、フランス、モロッコと4在外事務所、計15年を仏語圏で過ごしました。所長としてはモロッコに次いで2回目。モロッコでの私の後任が小細所長、小細所長はコンゴ民に横異動し、その後任が今度は私と、2人の間で家具や車を売ったり買ったり。中部アフリカは初めてですが、なんとなく「戻ってきた！」という懐かしい感じがします。コンゴ民でもこれまでの経験を生かしてJICA事業の発展に努めたいと思います。公では「風通しのいい事務所」を、私では「娯楽は自ら作るもの」を実践したいと思っていますのでよろしくお願い致します。(青木利道)

## ♪ キンシャサの音楽事情 ♪

## Kin Life! -キンシャサで生きる-

ヨーロッパの音楽の都といえどウィーン。では、アフリカの音楽の都といえど？そう、もちろんキンシャサ！コンゴのポピュラー音楽の歴史は20世紀初頭までさかのぼり、アフリカ各地はもちろん世界の音楽シーンに影響を与えてきました。街中に音楽があふれ、クリスマスも正月も盆も、教会でもバーでも、踊るっきゃないコンゴ人。だって人生、時には笑って歌い飛ばさなきゃやってられない日も、あるわけ。

だからJICA事務所長は歴代ミュージシャン。コンゴ音楽プロモーターであり、歌って踊れる初代所長飯村。二代目所長米崎は西アフリカ伝統楽器・コラを爪弾きながらスタッフを癒し、三代目所長小細はコンゴ民警察音楽隊を指揮。新所長青木は着任早々どこで練習？！リンガラ語でルンバを熱唱して皆を乱舞させる。脇を固めるメンバーには、太めのお腹をめいっばい共鳴させゴスペルを絶唱する事務所運転手。楽器不足で電気もない中、バイオリンやチェロを手作りし、暗闇のガレージで練習を続け、映画や世界ツアーでも有名になった奇跡のオーケストラ「キンバンギスト」のトランペッターにピオラ奏者。なぜか日本の音大出身というキーボード担当。そして、最近さらに日本のポップスレパートリーが増えたコンゴ人運転手シンガー(第3号で紹介)は、今回離任する小細から愛器のギターを譲り受け、「JICAテーマソングを作る！」と意気込む。各種式典でコンゴ民国歌、日本国歌に続き、JICAコンゴ民ソングが歌われる日も、遠くないかもしれない！



キンバンギストバンド feat. Eihiko



小細直筆サイン入りギターでJICAテーマソング作曲中？

## Eat Kin! -キンシャサで食べる-

### 事務所スタッフの食事情



小細所長力作カレーを囲む事務所スタッフ★



パスタが、ジャージャー麺に様変わり！

とある夕食、「カレー食べにきませんか？」とのお誘いを受けたところ、「ビーフカレーだけでも、メインのピーマンを味わって食べるように！」とのお達し???よくよく聞けば、スーパーで購入した立派なピーマンははるか南アから輸入され、大きいとはいえ2つで約10ドル。そう、多くを輸入に頼っていると同時に、国内輸送コストも高いコンゴでは、食料品が高い！節約するには、日本と同様、まとめて作って、個別冷凍。車移動が義務付けられているため、ランチは家から持参が多いので、この冷凍パックが大活躍。もちろんランチに出かけることもあります。メガ・ポールキンシャサの渋滞を考慮し、昼休みの開始と共に出発！！最近、事務所向かいのコンゴ料理の食堂(通称「社食」)を愛用する人も。こちらは、魚、野菜、ライスなど、選べるワンプレートランチで200円★

さて、事務所ナショナルスタッフのお食事は？やっぱりみんなコンゴ料理が一番。あんこ系や現地食以外のスパイス系はやや苦手？そんな中、皆に受けが良いのが、日本のカレーライス。何かといえば集まるコンゴ民事務所。そんなときには、365日カレーがあればOKな小細所長のお手製カレーが登場。すぐに売り切れ！この売り切れ必須の小細所長のカレーもコンゴ民では食べ納め(涙)。とそこに、圧力鍋と重曹を抱えた青木所長が登場。豚は一日目は、角煮。そして、翌日には、ラーメンスープに。パスタはお湯に重曹を加えれば中華めんに早変わり。と、中華食堂登場！こうして、コンゴ民事務所スタッフのお腹はいつも満たされ、仕事に励む毎日です！



1995年にバナナ・キンシャサ交通公団(OEBK)が大使館に提出したマタティ橋の現状に関する調査報告書。この熱意溢れる報告書に心打たれ、1996年、海外経済協力基金(OECF)ミッションの派遣がついに決定されたのです！このミッションでは、橋の現状、維持管理体制などの調査を実施。1991年のJICA専門家としての派遣時には、到着翌日に暴動に見舞われ帰国せざるを得なかった(株)IHIの滝澤氏が本ミッションで再訪。さて、建設後数年経ったマタティ橋の現状は？さすがはOEBK★資機材も技術も不十分なか、橋の清掃、腐食しやすい部分への気配りなど、自分たちで工夫を凝らしてメンテナンスを実施。さらに、このメンテナンス費用を、橋の通行料をフルして実施するなど組織体制もしっかり構築！この様子を目の当りにした滝澤氏はOEBKの取組の素晴らしさに大感動★

マタティ橋のメンテに一所懸命なOEBK。次なる取組は？そう、橋の再塗装！しかし、初めての経験に疑問がいっぱい。塗料は何を使えば良いの？どこから調達可能？こんな時、頼りになるのはやっぱり日本人！ということで、OEBKは、村上OEBK元局長(現OEBK名誉総裁☆)にアドバイスを求めました。そうして、日本側関係者が、マタティ橋、そしてOEBKにとって最適な方法を検討の上、塗料購入先、塗装仕様などの助言を行いました。これを基に、OEBKは塗装技術研修を含む塗料購入契約を南アにある欧州メーカーの代理店と締結しました。まあ、なんとということでしょう♪OEBKは、2003年から4年にわたり、自らの手で塗装工事を行い、マタティ橋の美しさを維持させたのです。OEBKと日本人関係者の海を越えての共同作業の完了です！(続く)



監視カメラが備わった料金所でバッチリ料金徴収！



塗装状態も良いマタティ橋★

事務所長離任にあたってのご挨拶

コン月のイベント

モロッコ事務所スタッフに激励され、3代目コンゴ民事務所長として着任したのが2013年5月。恐る恐る空港を出ると、道端には人が溢れ、ボロボロのタクシーバスが逆走し、そこかしこ現れるはビールの看板。そして、事務所での勤務開始。モチベーションの高い愉快な仲間たちに出迎えられてから奔走すること1年11か月。あっという間に過ぎてしまいました。

業務上「目が点」になることや「遠い目」となったことも多々ありましたが、この1年半余りで空港はきれいになり、新しい路線バスが走るようになり、市民は並んで順番を待っている。近代的なマンションも建設ラッシュ。2015年は2ケタ成長を目指すもマタタ首相。

広大な国土、鉱物、森林、水、農業、そして人的資源とポテンシャルは膨大だが、あくまで「ポテンシャル」。とにかくやることが山積。道路・給水施設整備、保健人材開発、職業訓練能力強化、森林モニタリング強化、さらに、新たな警察改革支援プロジェクトも開始。5S-KAIZENも注目を集めています。キンシャサを拠点にたくさんの日本人専門家ががんばっています。

今年10月下旬からは、地方選挙にはじまり、上院議員、州知事選挙が順次開始。そして、2016年11月には大統領選挙、下院議員選挙が予定されています。選挙には、総額11億ドル以上の予算が必要とのこと。正念場を迎えるコンゴですが、土壇場に強いのがコンゴ人(土壇場にならないとやらないともいう)。私はこの国の未来を信じています！コンゴに関わられた全ての皆様ありがとうございました。引き続きご支援よろしくお願ひいたします。

三代目JICA事務所長 小畑 永彦 (2015年3月26日離任)



何度も「遠い目」になりながらも、最後は実現★ 浄水場竣工式！

愛すべき？コンゴ人



所属: JICAコンゴ民事務所  
氏名: レイモンとレオン

コンゴ民事務所のイケメンコンビ、レオン(右)とレイモン(左)。エンジニアのレオンはインフラ・電力セクター担当。医者の方のレイモンは保健・給水セクター担当。二人ともいつも冷静沈着、黙々と仕事する心強い味方☆2015年1月から正職員になりました！

最近日本語の勉強をはじめ、着々と語彙を増やしています☆日本語で会話できる日も近い？！

編集後記

<☆今月の「インガラ語」☆> 「リカンボ テ」  
この国で、先方政府の職員から、この言葉をかけられたところで、気は決して休まりません(涙)。しかし、こうも言わなきゃやってられないことも。。  
前号の答えは、「キトコ」=「キレイ、カッコイイ、おいしい」★。ちょっとおまけを期待して、レストランで「キトコ」と連発してみたところ、「じゃあ、他にも注文する？」と追加注文をとりに来ました。。コンゴ人、一枚上手か?!  
異動の季節を迎え、小畑所長は久々の日本勤務へ。離任前には、日本ではコンゴのプロモーション活動に奔走すると数百人のコンゴ人の前で固く約束★次号は、いよいよマタティ橋連載、感動の最終回(涙)。お見逃しなく！